

肥満が細菌性膣症の発症リスクを高める

西原 卓志¹、門上 大祐¹、中岡 義晴¹、森本 義晴²

¹医療法人三慧会 IVF なんばクリニック ²医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【緒言】細菌性膣症 (BV) は、膣内の *Lactobacillus* が減少し好気性菌や嫌気性菌が増殖した病的状態であり、肥満で有病率が高いという報告もある。そこで当院における肥満と細菌性膣症、子宮内フローラ検査の結果との関連について後方視的に調査を行った。

【方法】《検討 1》 当院で 2020 年 1 月から 2023 年 12 月までに、BV の検査を実施した 3,444 症例を BMI によって結果を分類し、BV の有無と肥満度との関連を調査した。《検討 2》 BV と診断され、メトロニダゾール内服錠 750mg/日、膣錠 250mg/日を 7 日間投与、投与終了翌日よりプロバイオティクスを 7 日間経膣投与し、再検査を行った 275 例に対しその治療結果と肥満度との関連を調査した。《検討 3》 当院での初回のフローラ検査を実施した 280 症例の BMI と *Lactobacillus* の割合の関連を調査した。

【結果】《検討 1》 細菌性膣症と診断された割合は、普通体重 ($18.5 \leq \text{BMI} < 25.0$) の 11.8% に対し、肥満 (2 度) 群 ($30.0 \leq \text{BMI} < 35.0$) で 22.0%、高度肥満群 ($35.0 \leq \text{BMI}$) で 30.0% と高い傾向にあった。普通体重を標準としたオッズ比は、肥満 (2 度) 群で 2.32、高度肥満群で 3.54 と、肥満 (2 度) 以上で有意にオッズ比が高値となった。《検討 2》 再検査の結果は、各肥満度間での差はみられなかった。《検討 3》 標準体重で *Lactobacillus* の割合が高い傾向にあった。

【考察】肥満 (2 度) 以上では、普通体重と比較し、*Lactobacillus* が減少する傾向にあり、その結果 BV の発症リスクが高まることが示唆された。肥満の有無によって BV の治療効果に差はなかったが、再発も少ないことから、肥満を有する場合は食事療法や運動療法を行うなど、様々なアプローチを併せて実施していく必要があると考えられる。